

直き心

大塚 喜一

幼児に接して最も純なる「心の保育」が行はれる第一義の資質は、保育者その人の「直き心」である。

「直き心」はすなほなる心である。相手をありのまゝに受入れる心である。一點の我を混ぜず、利己心や便宜や結果や是等の不純なるに、ごりに染まぬ本心を以て、幼児の現状のすべてをそのまゝに受入れる「純」なる心である。

如何に憂ふべき心の傾向にある子も、その心もちをそのまゝすなほに受入れる事によつて「直き心」に歸り得るのである。誘導も感化も更生も、先づ保育者の心が子供の心に從つて俱に動く事によつて子供の心がいたはれ和らげ

られはぐくまれ、やがて保育者の親心にすなほなる信頼を以て生育せしめられて行くのである。

願はくば幼児の純なる心により、我等の内に「直き心」が育成せられむことを。